

ボノボ（ビーリア）保護支援会 ニュースレター

2013年7月

ごあいさつ

ビーリア（ボノボ）保護支援会代表 古市剛史

はじめに、諸般の事情で昨年、一昨年とニュースレターをお送りできなかったことを、深くお詫びいたします。このあいだにも多くの方々から変わらぬご寄付をいただいたことを心よりお礼申し上げますとともに、これからは、毎年欠かさずニュースレターをお届けできるよう努めてまいります。

1996年にはじまったコンゴ民主共和国の戦争が2002年に停戦になってから、10年が経ちました。

停戦とほぼ同時にルオー学術保護区のワンバ村に戻り、研究と保護の活動を続けてきた私たちにとっては、次々と難題が持ち上がるとても難しい時期でしたが、ワンバ地区に住む人もボノボも、少し落ち着きを取り戻してきたように思います。皆様のご支援をうけて建設したワンバの診療所など、私たちの活動も少なからず地元の生活の立て直しに貢献できていると考えています。私たちが長年観察を続けているボノボの集団も、戦後徐々に数を増やし、戦前のもっとも多かった時期の個体数をほぼ回復して安定した状態で暮らしています。今後とも、このような人とボノボの共存を、さまざまな形で支えていきたいと考えています。

この3年間に、ひとつ悲しい出来事が起こりました。以前にもお伝えしたとおり、皆様のご支援をいただいて支えてきました Lola ya Bonobo (ボノボの楽園) は、森林伐採のためにあまりボノボが住まなくなってしまった地域に Ekoro ya Bonobo (ボノボの土地) という 200 平方キロメートルもの広大な土地を確保し、増え続ける Lola ya Bonobo のボノボたちを自然に戻すプロジェクトを手がけてきました。9頭のボノボを森に戻す 2009 年の第 1 回目の試行はうまくいきました。しかしその後、同じ地域に再びボノボを戻す 2 回目の試行を行っていた 2011 年 8 月に、放したボノボの様子を見守っていた飼育人 3 名が襲われて顔に大けがを負うという事件が起こりました。普段は平和的なボノボがなぜそういう行動に出たのか、はっきりしたことは今もわかっていません。

Lola ya Bonobo のクローディンさんたちは、世界中から寄付金を募って怪我をされた方に高度の整形手術を受けさせるとともに、ボノボを森に戻す計画の今後の進め方について慎重に検討を進めていらっしゃいます。私たちとしても、Lola ya Bonobo への支援を継続しつつ経過を見守っていきたくと思っています。

これからも、皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



イヨンジ・コミュニティ・ボノボ保護区、設立！

坂巻哲也

2010年11月号のニューズレターで、ボノボの長期研究が行なわれているワンバに隣接するイヨンジ村の新しい保護区設立に向けた活動について紹介しましたが、この新しい保護区設立が2012年4月、コンゴ政府に認められました。イヨンジ・コミュニティ・ボノボ保護区 (Iyondji Community Bonobo Reserve) と言います。1,100km²の広さがあり、西にルオー学術保護区、東にはココロポリ・ボノボ保護区が隣接します。ボノボの生息する森が連続して守られることになったので、その意義は大きいです。



イヨンジ調査チーム

ワンバ村は、ルオー学術保護区の中央を東西に流れるルオー川の北側に位置します。イヨンジ村の集落と畑も、ルオー川の北側の幹線路ぞいにあります。イヨンジの保護区はルオー川の南側に位置し、熱帯雨林の一次林が広がります。森の中には採集や漁撈、狩猟のための小屋が点在するくらいです。しかし、点在する小屋とは言いながら、今も保護区の西部や南部から来た人々が森に住んでいて、今後の保護区管理において重要な課題の一つになっています。ボノボと村人の共存が目指されているワンバとは異なる状況で、イヨンジに合った保護管理計画が必要となります。

2010年から進められた国際 NGO、アフリカ野生生物基金による保護区設立のためのプロジェクトは、2012年2月に終了しました。政府機関によるイヨンジ保護区の管理はまだ始まっていません。私たち、ビーリア（ボノボ）保護支援会は、イヨンジ村の NGO「ボノボの森」に、2008年から若干の森林警備員を雇用する支援を続けています。村と隣接し二



イヨンジ村の調査キャンプ

次林が多いワンバの森と比べ、深い一次林が広がるイヨンジ保護区の森は、その環境の違いからボノボの調査地として学術的な魅力もあります。今後もワンバだけでなく、イヨンジ・コミュニティの保全活動にも注目し、地域の人たちと議論しながら私たちに支援できる有効な道を見つけていきたいと思えます。



HOGARAKA 奨学金、ついに卒業生！

坂巻哲也

今回は、私たちの活動のひとつ、ワンバ村、ルオー学術保護区のある地域での、奨学金による支援を紹介したいと思います。

奨学金という形の支援は、ボノボが住む森の保護活動としては間接的に思えるかもしれませんが。けれども、ボノボの住む森を大切にしたいという私たちの想いは、そこに暮らす村人と共有されてこそのことです。そもそも、私たちがワンバ村の人々と関わるようになったきっかけは、その村人たちが森に住むボノボと共存していく伝統を持っていたことにあります。

一方で、多くのアフリカ諸国がそうであるように、ワンバの人々が住む村にも、すさまじい勢いで現代のグローバルな市場経済の流れが押し寄せています。物質的な豊かさを求める文化と、個々の地域で大切にされてきた文化が会う接点において、私たちは何を考えていけばよいのでしょうか。それには、現在、世界でさまざまに起こっている諸々の問題を理解し、その中で自分たちのあり方を考えていく、そのための知性と理性を磨くことが大切だと思います。地方の人々にも高等教育を受ける機会が増えることで、みずから自分たちのあり方を話し合い、いずれはローカルな現場からの自律的な活動が2004年、2005年と、私たちがワンバ村を中心とする活動を進める中で、奨学金の支援が期待されるようになってきました。そのようなときに HOGARAKA 基金の機会を得た私たちは、2006年にワンバ村が位置するジョル県の役所の方々と、研究協力関係にあるコンゴ生態森林研究所 (CREF) の研究者の協力により、高等教育の奨学生の選抜を行ないました。また、ルオー保護区のあるワンバ村とイロンゴ村、それから隣接する地域の村に対して、中高生への奨学金も始めました。

小さい村では、高等教育機関へ進学する資格を持つ、中高校を卒業した人の数は限られます。そのような状況で HOGARAKA 奨学金は、村人にとって、他にない大きなチャンスとなっています。この奨学金では、地域住民の生活向上と自然環境に関係する分野で活躍してくれる人を育てたいという考えから、医学関係と生物学関係を専攻する学生を支援しています。昨年、今年と、紆余曲折はありながらも、ついに高等教育機関を卒業する奨学生が出てきました。

この先、卒業生たちはどのような道を進むのか、どのような就職・活動の可能性があるのか、どのような問題に直面しているのか、関心が向かわざるをえません。あるいは、私たちと関係のある奨学生を通して、ボノボが住む地域や国の諸問題を知る貴重な機会が得られるのかも知れません。これからも CREF の研究者、地方役人の協力を仰ぎながら、卒業生のこれからの道を見守りつつ、私たちにできることがあれば、新しい支援の形を考えていきたいと思えます。



ワンバ村とイロンゴ村の奨学生、バンダカの高等教育機関の中で



ボノボの楽園、近況報告

昨年4月、皆さんからご寄付いただいたお金をボノボの楽園に寄付したところ、お礼のカードが届きました。

ボノボの楽園のニュースレターも、ブログのように随時更新されています。こちらもぜひご覧ください。

http://homepage3.nifty.com/bonobo/bonobo_newsletter.html



ワンバのボノボたち ～E1 グループメンバー紹介～

リウ ファンジン

2011年8月に、初めてワンバでフィールド調査をしてきました。ワンバでの調査で一番大変なことは、ものが簡単に手に入らないことです。そのため、調査のための道具や生活に必要なものを、出発前はかなり注意深く用意しなければなりません。ワンバでのフィールド調査は、決して容易なものではありませんでしたが、野生のボノボについてたくさん学ぶことができました。

私が調査を行ったのは、ワンバに生息するE1グループという集団のボノボたちです。E1グループには、オトナのオスが9頭、オトナのメスが7頭います。9頭のオトナのメスたちは、すべて他のグループから移入してきた個体で（注：ボノボは父系型の社会構造をとり、オスは生まれた集団で生涯暮らし、

メスは性成熟後他集団に移籍します)、現在全員アカンボウをもっています。ボノボは、1頭1頭それぞれ個性豊かです。本稿では、E1グループのボノボたちを紹介したいと思います。

オス

ノビタ：E1グループの第一位オス。そして、第一位メスのキクの長男です。ノビタはいつもグループの中心部にいて、あかんぼうたちにとっても優しく、子どもたちや、時にはオトナのメスとも遊んだりします。



ノビタ

テン：E1グループの一番年寄りのオスで、かつてはE1グループの第一位オスでした。かつての栄光はどこへやら、今はかなり順位が低いようで、他のオスのことを怖がっているようです。若いメスのフクやノバに攻撃されることもあります。2011年5月から5ヶ月間、グループから姿を消していました。2011年10月に戻ってきましたが、他のメンバーが攻撃したためか、すぐまたみんなと一緒に遊動しなくなってしまいました。

タワシ：E1グループで2番目に年寄りのオスで、ノビタの前の第一位オスでした。年のせいか弱っており、いつも樹上か地面で横になっています。タワシは、グループの中心部にいますが、それはたぶん他のオスが許しているからだと思います。



タワシ

ダイ：第二位のオス。他のオスたちにはとても攻撃的ですが、あかんぼうには優しく、特にホシのアカンボウのハチローとよく遊びます。

ゴーシュ：中順位のオス。ダイより少し小さいゴーシュは、高順位のオスたちにグループの中心部からたびたび追い出されています。ゴーシュは、ジローや他の若いオスたちとよく遊びますが、ジローが交尾をするのを許しません。

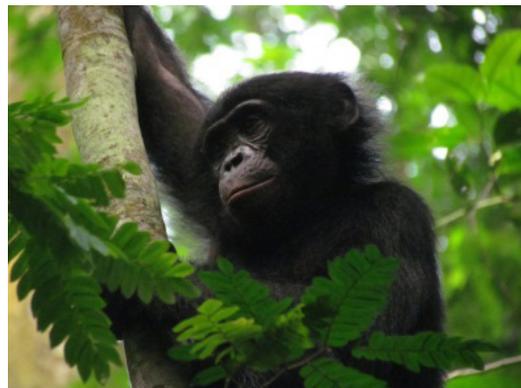
ジュティ：恥ずかしがり屋のオスで、なかなか見ることはできません。第一位オスのノビタと仲がよいようですが、ジローや他の若オスたちによくけんかをふっかけられています。ジュティはいつもグループの周辺部にいるので、彼について歩いて観察するのは大変です。

ロボコ：ロボコの性格をひとことでは難しいです。他のオスがいつもロボコをグループの中心部から追い出していますが、ロボコがよく行う声やドラミング（板のように張り出した木の根をたたいて音を出す行動）が集団の動きに影響をしているように思えます。

ジロー：ジローはジャッキーの息子で、物怖じしない10～11才の若オスです。人間の観察者を決し

て怖がったりしません。彼は今、低順位のおとなのオスに挑戦しているところで、そのため、最近一番多く他のオスと敵対的な交渉を行っています。

キタロー：第一位メスのキクの息子で、メスたちに受けがよい8歳の子どものオスです。早親のせいか、キタローはいつも集団の中心部にいて、同年齢のシバと比べて、しょっちゅうメスたちとつきあいがあります。



シバ

シバ：キタローより9ヶ月だけ若いかわいらしいコドモオスです。母親のサラと一緒に集団の周辺部にいることが多いです。そのため、他のメスたちとのあまりつきあいがありません。

メス

ナオ：E1グループの最年長メス。ナオは、キクの前の第一位メスでした。ナオは年をとっているものの、強気で、若いメスに攻撃をすることもあります。ナオには現在2頭の娘がいますが、このうちナチはもうそろそろ生まれ育ったE1グループを離れる頃だと思えます。ナチは、観察している人間に近づいてきて枝を揺らして脅かそうとしたりするいたずらもので、ワンバのトラッカーたちにはCrazy girlと言われていました。



キクとキョータ

キク：現在のE1グループの第一位メス。第一位のオス、ノビタの母親でもあります。ノビタ以外に、子どもオスのキタローとあかんぼうのオスのキョータがキクの子供です。キクは、他のメスたちからよくグルーミングされますが、キク自身は息子たちにグルーミングする以外、あまり他の個体をグルーミングしません。

ホシ：ホシにはハチローというあかんぼうがいますが、ホシはとても過保護な母親です。ベッドで寝ているときでも、ハチローが遠くに行かないように足や腕をつかんでいたりするくらいです。たぶん、ハチローの前のあかんぼうを亡くしてしまったからかもしれません。

ユキ：とても大きくぼこぼこした性皮をもっているので、簡単にユキだと見分けがつかず。片手を罨によって失ってしまいましたが、順位も高く、強いメスで第二位オスのダイに攻撃したりすることもあります。その一方、優しいところもあり、こどもオスのキタローとよく遊んであげたりしています。自分の娘のユメをとってもかわいがっていて、ユキはめったに他のメスをグルーミングしないのですが、ユメだけは、不自由



ユキとユメ

な手で丁寧にグルーミングをよくしています。

ジャッキー：大きなイボが顔にあるため、ジャッキーを見分けるのは簡単です。2頭の息子がいますが、息子たちの順位にはあまり興味がないようです。最近出産して、キク一家と並んで一番大きなファミリーになりました。

サラ：なんとなく集団の周辺部にいるメスのボノボです。特に、第一位メスのキクがいるときには、群れの端にいます。サラは最近出産したのですが、あかんぼうをつれて最初にグループに戻ったとき、たくさんのメスたちがサラのあかんぼうを見に来ました。

ノバ：サラと同じように周辺部にいることの多い、若いメスのボノボです。ノバが発情しているとき、第一オスのノビタがずっとノバに張り付いていたのですが、発情が終わったとたん、ノビタはノバを無視するようになりました。ノバがちょっとかわいそうでした。

オトミ：若メスのオトミは、だれとでも仲良くなりたいようで、メスにもオスにも積極的に働きかけています。オトミも最近初めての出産をしました。

フク：なぜかオトナのオスに人気のある若いメスのボノボです。フクの0才のあかんぼう、ファもオスに人気があります。



フクとファ



寄付のお願い

ボノボの保護にご協力いただける方に寄付をお願いします。寄付金は、ボノボ孤児施設の支援および野生のボノボの保護に使われます。ただし、使い道のご希望があれば、孤児施設の支援、野生ボノボの保護などと通信欄にお書き添えください。

振込先 郵便振替 00820-7-128368

ビーリア (ボノボ) 保護支援会

ゆうちょ銀行 ○八九店 (ゼロハチキュウ店) 当座 0128368

なお、ニューズレターをメールでお受け取りになりたい方は、振り込み書の通信欄にメールアドレスをご記入ください。

連絡先

〒484-8506 愛知県犬山市官林 京都大学霊長類研究所

ビーリア (ボノボ) 保護支援会

Fax : (0568) 63-0565

E-mail: bonobo@mbd.nifty.com

ホームページ : <http://homepage3.nifty.com/bonobo/>